

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2172000545		
法人名	有限会社 アヴェニール		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地 (電話番号)	岐阜県岐阜市河渡5丁目60番地 (電 話) 058-253-1228		
評価機関名	NPO法人 特定非営利活動法人ぎふ住民福祉研究会		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1		
訪問調査日	平成19年7月14日		

【情報提供票より】(平成19年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 5人, 非常勤 9人, 常勤換算	12.8人

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	31,500 円	
敷 金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 100,000 円	有りの場合 償却の有無	有() 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800円			

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	11 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 76.9 歳	最低	63 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岐阜中央病院、山田病院、寺田診療所、ほり歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は、田園地帯の中に位置し、自然に囲まれた静かな環境の中にある。ホーム内は明るく、「和気藹々(わきあいあい)」の理念のとおり、入居者と職員が慣れ親しんだ関係の中で、日々の生活を送っている。また、ホーム長をはじめ看護職が複数従事していることから、医療依存度の高い人も積極的に受け入れていることも、この事業所の特徴といえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果に基づき、重要事項説明書や同意書といった書類の整備が行われている。また、ケアプランの作成(更新)プロセスが、具体的な記録(日々のケアでの気づき)を用いることでより明確になっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を職員個々の振り返りにつなげるためにも、全員で取り組み、全員の意見が反映されることが望まれる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、地元の自治会長、家族代表、地域包括支援センター職員、市役所介護保険室職員等で構成されている。災害時の支援を、自治会長を通して地域の消防団や水防団に依頼するといった取り組みがなされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者の近況を面会時に伝えるとともに、家族の要望等を聞き取るようにしている。面会の少ない家族の場合は、はがきに写真をプリントして送り、近況を伝えることで要望等を聞き取るきっかけづくりとしている。ホーム側の働きかけは行っているが、これまで家族から具体的な要望が出されたことはない。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元自治会に加入し、地域の行事(お祭りや運動会など)にも参加している。また、地域の喫茶店や商店に出かけることで、地域の人たちとの交流も図られている。</p>
重点項目④	

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和気藹々」という理念を掲げ、カンファレンスの際などで時々取り上げることで、日頃のケアが理念に基づいて行われているか振り返っている。	○	平成18年度からは「地域密着型サービス」へ移行したことを踏まえ、スタッフ全員で地域密着型としての理念について再度検討していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所に理念を掲げているほか、理念を実現するために「その人(利用者)を知る」ということに、スタッフ全員で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会に加入し、地域の行事(お祭りや運動会など)にも参加し、地域の喫茶店や商店に出かけることで、地域の人たちとの交流も図られている。また、毎月地域の民生委員に訪問してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価における要改善点については、改善の取り組みがみられた。	○	自己評価については、管理者だけで行うのではなく、職員全員で取り組むことで、自分たちの実践の振り返りにつなげていって欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、行政の意向で他のグループホームとの共同開催であったが、今年度から事業所単独で開催されるようになった。 自治会から申し出のあった災害時の対応について、新たに消防団や水防団に協力を依頼するなど、運営推進会議での話し合いが活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何度も出向いて相談していることから、困ったことがあれば何でも相談できる関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会を利用して家族に利用者の暮らしぶりを伝えているが、面会の少ない家族にははがきに写真をプリントして報告するという工夫をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプランの更新時等に家族の要望等を聞き取る様になっているが、これまでに具体的な要望等が出されたことはない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来退職者は1名だけで、大きな異動は行われていない。職員の補充は行われているが、いずれも病院や福祉施設での経験を積んだ人を採用するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、意欲のある人を優先的に参加させるようにしている。	○	年間あるいは中・長期の研修計画を立て、職員が計画的に研修を受けられる体制を整えることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加入している他、常時情報交換等を行っているグループホームが3カ所ある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、必ず複数の職員で待機者(入居希望者)の状況を把握するとともに、事業所として「できること」と「できないこと」を家族に説明し、納得してもらった上で入居してもらっている。また、できる限り本人に見学してもらおうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事などの経験を發揮してもらいながら、職員は利用者を人生の先輩として学ぶ姿勢で接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に家事をする時などに希望(食べたいもの、行きたいところなど)を聞くようにしており、すぐに対応できないことについては気づいたことを記録しておくノートに書き込み、カンファレンス等で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当が決められており、それぞれがモニタリング、評価、計画の原案作成を行い、またカンファレンスで他の職員の意見も取り入れながら介護計画を作成している。なお、家族の意見等は、面会を利用するなどして聞き取るようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間6ヶ月と3ヶ月ごとの見直しを基本としているが、ケアプランチェック表を作成し、目標が達成されているかどうかほぼ毎日記録している。このことが、モニタリングに活かされ、随時の計画の見直し等に役立てられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	大半の方が通院しているが、利用者の状況を把握し、医療機関との連携を図るため、必ず職員が付き添うようにしている。 また、地域の要望に応えるために、認知症対応型通所介護の実施を検討している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の受診を基本としており、透析の必要な1名を除いて(家族の同意を得て協力医療機関で透析)、全員がかかりつけ医で受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当初に書面で家族に説明し、書面で同意を得ている。実際にターミナルケアを実施した実績もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライドを傷つけないケアを大切にしている。また、職員には利用者と一緒に写った写真や個人情報が記載された書類等を事業所外に持ち出さないことが義務化されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先する様子は見られなかった。また、地域の行事に参加したり、ボランティアの訪問(落語など)がある場合も、全員参加ではなく一人ひとりの希望を優先している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備をしたり、一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴を原則としているが、希望があれば予定日以外にも入浴することはできる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の他にも縫い物や園芸、家庭菜園など、入居前の経験を発揮してもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本屋や喫茶店の利用、買い物など、なるべく希望に応じて対応している。また、外出の希望を訴えない方でも外食や行事的な外出、地域行事への参加を呼びかけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵がなく、玄関も日中は鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時のマニュアル作り、職員内では対応方法の取り決めがあるが、避難訓練等は実施していない。	○	防火管理者の資格を取得するなど、災害対策の準備が勧められており、避難訓練も実施予定ということなので早急な実現を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録されている。また、疾病のため水分の摂取量を制限されている人等については、介護計画に位置づけることでスタッフ全員が把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るくゆとりがあり、入居者がそれぞれの生活の場面に応じて自由にのんびり過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は持ち込み自由で、冷蔵庫が置いてあるなど、利用者の個性や好みによる違いが見られた。		